

個人から見た金融商品

2003年10月31日

シンクタンク・ソフィアバンク

取締役

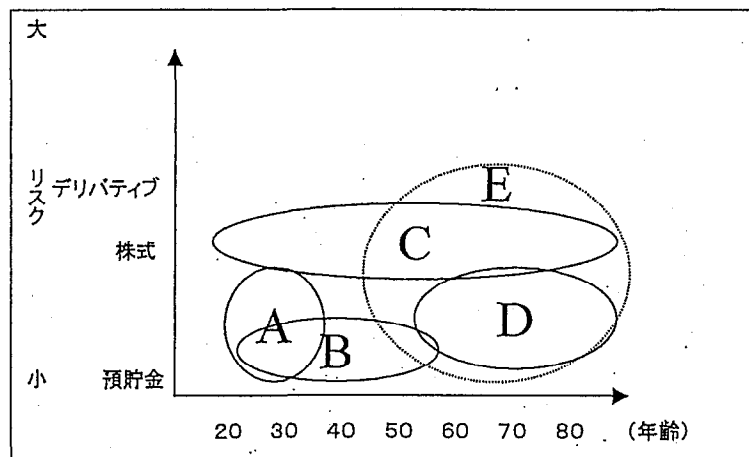
藤沢久美

fujisawa@sophiabank.co.jp

1) 資産運用の目的

老後など将来の生活資金の心配、老後資金1億円説

2) 年代別資産運用動向



(A) 20代後半～30代女性

動機：生涯独身であることに対する不安

興味：住宅ローン、保険、外貨預金、投資信託、株式、債券

特徴：リスク商品へ100万円程度の資金を振り向けるつもりはあるが、
基本的にはリスクは避けたい

税制：考慮せず

(B) 主婦

動機：住宅取得および教育資金の確保

興味：住宅ローン、保険、郵便貯金、預金、(投資信託)

特徴：堅実に、かつ少しでも有利に資金を確保したい

税制：消費に関する税制には敏感だが、資産運用に関しては興味をもたない

(C) 男性会社員

動機：お小遣い稼ぎ

興味：株式、e フラント、外貨証拠金取引、投資信託、商品ファンド、証券化商品

特徴：リスクを取って、短期間で大きく儲けたい

税制：投下資金が小額であるため、意識する程度

(D) 高齢者、富裕層

動機：資産の目減りを防ぐ

興味：預金、郵便貯金、国債、外債、投資信託、金、不動産、変額年金保険

特徴：リスクは好まないが、為替リスクは許容範囲内。銀行を利用する人が多い。

女性の方がリスクをとる傾向が高い

税制：税金よりも安全性と利回りを重視する。若年世代よりも税金に相対的に敏感。

(E) 自立型富裕層

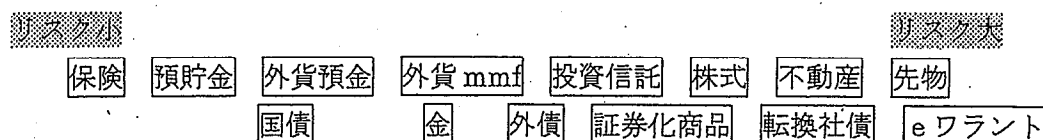
動機：第二の事業として

興味：株式、商品先物、不動産

特徴：リスク管理ができ、自己責任がとれる。

税制：税制によって投資行動に大きな影響を受ける

3) 金融商品の精神的リスク感覚



4) 資産運用に対する考え方の変化

- ① 30才代から50才代の36%が老後資金作りにリスク商品を活用
- ② 国際分散投資思想の定着
- ③ 積立型投資の定着
- ④ 週末起業の静かなブーム

以上

(参考)

○1世帯当たり世帯主年齢別貯蓄保有額の推移

(単位: 万円)

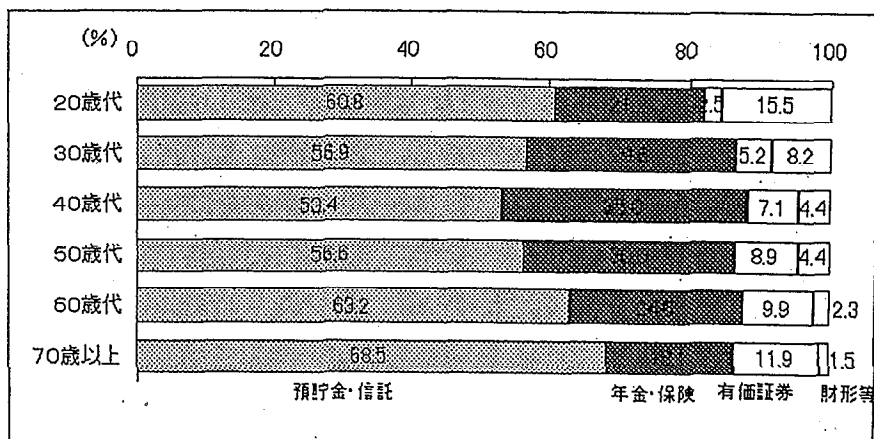
	平 均	世 帯 主 年 齢 階 層 別					
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
昭和55年	482	204	352	501	618	595	
60	688	229	406	700	854	902	931
平成2年	1,181	413	645	967	1,436	1,752	1,669
4	1,259	428	681	971	1,384	1,869	1,986
5	1,300	331	599	1,042	1,531	1,936	1,733
6	1,300	335	633	1,034	1,446	1,941	1,782
7	1,287	282	588	993	1,503	1,879	1,687
8	1,301	344	666	945	1,538	1,742	1,887
9	1,347	284	608	1,100	1,422	1,942	1,842
10	1,309	330	625	1,103	1,431	1,751	1,853
11	1,366	321	684	1,038	1,449	1,857	1,758
12	1,448	364	724	1,072	1,558	1,941	1,943
13	1,439	278	692	1,091	1,557	1,860	1,787

資料: 金融広報中央委員会「家計の金融資産に関する世論調査」

(注) データ始期は昭和38年。

○年代別にみた貯蓄保有額の種類別構成比(平成13年)

	預貯金・信託	年金・保険	有価証券	財形等
20歳代	60.8	21.2	2.5	15.5
30歳代	56.9	29.6	5.2	8.2
40歳代	53.4	35.0	7.1	4.4
50歳代	56.6	30.0	8.9	4.4
60歳代	63.2	24.6	9.9	2.3
70歳以上	68.5	18.1	11.9	1.5



資料: 金融広報中央委員会「家計の金融資産に関する世論調査」